

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」8月下旬入庫の暗黒低温処理における採苗時期の違いと頂花房の出蕾、収穫開始、年内収量

[要約]「ゆめのか」は10.5cmポリポットに5月20日に鉢受け、6月5日に切り離し、窒素200mg/株を施肥すると8月下旬にはクラウン径10mm以上の大苗となり、暗黒低温処理により収穫が前進化し、年内収量は安定する。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、暗黒低温処理、採苗時期

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2013年度

[背景・ねらい]

本県の主要園芸品目であるイチゴは、現在その8割近くを「さちのか」が占めている。「さちのか」は果実品質に優れる反面、晩生で年内収量が少なく、果実が小玉傾向で収量向上が難しいため、生産が伸び悩み、農家所得は減少傾向である。

その中で本県では新たなイチゴ品種の導入が求められており、愛知県育成の「ゆめのか」は高い収量性に加え、輸送性に優れているため、有望候補品種であると考えられ、今後、現地へ普及を図るには本県の環境条件に応じた栽培技術の確立が必要となる。

「ゆめのか」は収量性に優れるが、普通ポット栽培においては頂花房の花芽分化が「さちのか」より遅い傾向があり、年内収量を安定的に確保するためには早進化技術を活用する必要がある、これまで8月下旬入庫の暗黒低温処理効果について明らかにしている。

ここでは「ゆめのか」の採苗時期及びポット容量の違いによる苗質の違いが暗黒低温処理の効果及び年内収量等に及ぼす影響を明らかにし、「ゆめのか」に適した育苗技術の確立に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ゆめのか」は10.5cmポリポットに5月20日鉢受け、6月5日切り離し、窒素200mg/株を施肥すると暗黒低温処理直前の8月下旬にはクラウン径10mm以上の大苗が確保できる(表1)。
2. 「ゆめのか」の暗黒低温処理は10.5cmポリポット、5月20日鉢受け、6月5日切り離し、窒素200mg/株施肥で年次差がなく、出蕾、収穫開始日が早く、年内収量が安定する(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」の現地普及に向けた育苗期栽培管理の指標として活用できる。
2. 暗黒低温処理前の8/1~8/24までの平均気温は2012年が28.8℃、2013年が29.7℃(農林技術開発センター計測値)であり、2013年が0.9℃高く推移している。

[具体的データ]

1. 供試品種 「ゆめのか」
2. 栽培方法 2012年度 長崎県型高設栽培 株間20cm、2条(700株/a)、9月10日定植
2013年度 地床栽培 株間22cm、2条(600株/a)、9月12日定植
3. 育苗方法 雨除け高設育苗 イチゴベンチポット培土使用
4. 暗黒低温処理 2012年度 8月25日入庫 9月8日出庫 設定温度:15℃
2013年度 8月26日入庫 9月11日出庫 設定温度:15℃
5. 試験区の構成

区制	鉢受け日	切り離し日	育苗容器	施肥量 (N-mg/鉢)
試験区 1	5/20	6/5	10.5cm ^ホ リポット	200
試験区 2	6/5	6/20	10.5cm ^ホ リポット	200
試験区 3	6/20	7/5	9cm ^ホ リポット	140
試験区 4	7/5	7/20	7.5cm ^ホ リポット	70

注) 1区10株2反復。試験区1の2012年は6/4切り離し。

試験区1~3は切り離し日にN-140mg/株、試験区1,2は7/5にN-60mg/株(2回目)、試験区4は切り離し日にN-70mg/株、緩効性の置き肥を施肥

表1 恒温室入庫前の生育

	2012年(8/24調査)				2013年(8/26調査)			
	第3葉葉長 cm	第3葉小葉長 cm	クラウン径 mm	硝酸態N ppm	第3葉葉長 cm	第3葉小葉長 cm	クラウン径 mm	硝酸態N ppm
試験区1	19.3±0.2 a	8.1±0.6 a	10.1±0.3 a	104±27 c	23.0±1.1 a	8.5±0.3 a	10.6±0.4 a	83±5 a
試験区2	18.3±1.0 a	7.9±0.3 a	9.6±0.3 a	201±44 b	20.6±1.5 a	8.6±0.3 a	9.6±0.3 b	82±25 a
試験区3	17.3±1.5 a	7.6±0.4 a	8.4±0.4 b	236±25 ab	17.4±1.1 b	7.4±0.4 b	8.9±0.4 b	96±12 a
試験区4	16.1±0.9 a	7.5±0.5 a	7.7±0.4 b	260±23 a	14.6±1.2 b	5.8±0.2 c	7.0±0.3 c	116±14 a

注) 表中のアルファベットはTukey法により同列の異なる文字間に1%水準で有意差があり、±は95%信頼区間の幅
硝酸態NはH社の硝酸イオンメーターB-341の測定値

表2 出蕾日及び10月までの出蕾率、収穫開始日、年内収量、先青果率

年次	区制	出蕾日	10/31まで		年内収量	年内先青果
			出蕾率(%)	収穫開始日		
2012	試験区1	10/10±1 a	100	11/22±1 a	150	4.1
	試験区2	10/11±1 a	100	11/25±1 a	203	8.4
	試験区3	10/10±1 a	100	11/22±1 a	164	5.8
	試験区4	10/10±1 a	100	11/22±2 a	149	6.7
2013	試験区1	10/13±2 a	100	11/29±5 a	75	0.0
	試験区2	10/26±9 ab	75	12/18±15 ab	58	0.0
	試験区3	11/3±10 b	50	12/30±16 b	41	1.7
	試験区4	11/4±7 b	30	1/5±12 b	18	0.0

注) 表中のアルファベットはTukey法により同年次、同列の異なる文字間に1%水準で有意差があり、±は95%信頼区間の幅(n=20)

[その他]

研究課題名: ながさきオリジナル品種育成促進事業、イチゴ次期有望品種「ゆめのか」の安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2012~2014年度、2013~2015年度

研究担当者: 前田 衡